

コード	403020106
記入日:	H22.5.20

課コード	108
課名	まちづくり推進課
課長名	近藤 恭明
担当者	坂下幸喜

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	花火・祭り等イベント関係補助金
----------	-----------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	7		
施策コード	403	施策名称	商工業の振興	項コード	1		
基本事業コード	40302	基本事業名称	特産品の開発	目コード	2		
事務事業コード	4030201	事務事業名称	特産品開発支援事業	細目コード	145		
関連計画			法令・条例規則等	新上五島町商工観光振興奨励事業費補助金交付要綱			

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標				
(対象1)	住民	(対象指標1)	23,719人(H21.4.1)			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	補助金交付団体 7団体 ・サマーフェスティバルinわかまつ ・奈良尾夜市と花火 ・ざあーまによか夏上五島 ・どてらい市 ・ありかわ縁日 ・ざあーまよまつり ・奈良尾ふるさとみじよかまつり	① ***** 補助金交付件数	***** 7件	***** 100%	補助金交付団体数/補助金交付予定団体	***** 平成21年度
		(達成率分析)	計画していたイベント実施団体全てに補助金を交付済み。			
		② *****	*****	*****	*****	*****
		(達成率分析)				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
各地区の実行委員会が開催するイベントに助成を行うことにより、イベント内容の充実を図り、地域の賑わいを創出し活性化を図る。(目標参加数 マリン有川2,500人 奈良尾夜市と花火3000人 サマーフェスティバルinわかまつ5000人 ざあーまによか夏上五島5,000人 ざあーまよまつり2,000人 どてらい市800人 奈良尾みじよかまつり1,000人)		① ***** 集客数	***** 19,300人	***** 100%	集客数÷目標参加者数	***** 平成21年度
		(達成率分析)	集客数では目標どおり達成し賑わいのあるイベントの実施ができた。			
		② *****	*****	*****	*****	*****
		(達成率分析)				

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	①	件	21	21	14	7	7				
	②										
成果指標	①	人	57,500	57,500	38,200	19,300	19,300				
	②										
総事業費C(A+B)	千円	29,718	29,693	24,018	5,700	5,675					
直接事業費A	千円	26,218	26,193	21,218	5,000	4,975					
人件費B	千円	3,500	3,500	2,800	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	29,718	29,693	24,018	5,700	5,675					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	地区の活性化策としてバックアップしていく必要がある
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	イベントの賑わいの場合は町民の関心度が高く、参加人数も多いことから必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	補助金の趣旨どおり適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	イベントの開催は地区の活性化を生んでいる。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	イベントの内容をより充実して集客数を増やしていくことが重要である。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	町の補助金無しではイベントの規模が小さくなり参加者も少なくなる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	将来的には1つの大きなイベントの実施に向けて方向性を現在模索中である。現段階での統合は困難である。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	500万円の範囲で振り分けて行っている。段階的に総枠の減少を行い自主運営の方向付けを行っていく。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	最小の人員で行っており削減できない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	条例に沿っており、適正である。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要は無い。
		有効性	イベントの内容の充実を図っていく必要がある。
		効率性	今後の経過を考慮して見直しを図りたい。
	課題に向けた改善策	花火の実施については、実行委員会で協議をしながら、統合できるところは統合し、効率的な実施を行っていく。	
	2次評価	妥当性	旧町時代からの経過の中で今日まで来ている。イベントは地域の活性化に対して一過性のものが多くなるのではないかと。町としては各実行委員会の独立を促しながら新たな対策に向けていくべき。
		有効性	各団体の自主性を尊重し、地域の賑わい、活性化に向けた取組を支援し、住民協働のまちづくりを図っていくこと。
		効率性	補助金の執行については、内容を精査し適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
				このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
	●			事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。